

小学校への出前授業を通して考える校種間横断的な 小・中学校理科授業づくり

—王寺町立王寺南義務教育学校開校に向けて—

Creating cross-school-type science class over elementary and junior high schools

— Toward the opening of Oji Minami Compulsory Education School —

新明 郁実

SHIMMYO Ikumi

(王寺町立王寺南中学校)

富田 晃彦

TOMITA Akihiko

(和歌山大学大学院教育学研究科
教職開発専攻)

受理日 令和4年1月31日

抄録：令和4(2022)年4月、奈良県の王寺町立王寺南中学校、王寺町立王寺南小学校と、王寺町立王寺小学校区の畠田地区が統合し王寺町立王寺南義務教育学校が施設分離型として開校する予定になっている。現行の王寺南中学校(後期)施設を5～9年生が使用し、一部教科を中学校の教科免許を持った教員が5・6年生の教科担任をもつ。この中で、小中学校両方で履修する第6学年「金属を変化させる水溶液」と第7学年「水溶液」についての授業、第4学年「水の三態変化」と第7学年「状態変化と熱」についての授業をそれぞれづくり、小学生と中学生の双方に実践した。その内容を報告し、小中連携の観点から振り返る。

キーワード：小中連携、義務教育学校、王寺町、理科、金属を変化させる水溶液、水の状態変化

1. はじめに

令和4(2022)年4月、奈良県の王寺町立王寺南中学校、王寺町立王寺南小学校と、王寺町立王寺小学校区の畠田地区が統合し、王寺町の南地区に王寺町立王寺南義務教育学校が施設分離型として開校する予定になっている¹⁾。前期を1～4年の4学年、後期を5～9年の5学年として、現行の王寺南小学校(前期)及び王寺南中学校(後期)施設を使用する。奈良県内では、すでに4校の義務教育学校があるが、いずれも僻地校であるため、それを除くと王寺南義務教育学校は、王寺町北地区に開校する施設一体型の王寺北義務教育学校とともに僻地校以外では奈良県初の義務教育学校開校となる。なお、王寺南義務教育学校では5年生より一部教科担任制を実施することから、理科において小学校段階で中学校の教員が乗り入れ授業を行うことが考えられる。

そうしたことを踏まえて、中学校教諭である筆頭著者(新明)は平成31年(令和元年度)度より、現在まで王寺小学校、王寺南小学校に毎年理科の出前授業をおこなっている。内容を、小学校、中学校双方にまたがっ

ている内容とし、中学校教員が、小学校に乗り入れ授業を行った際に考えられるさまざまなことを考慮した授業づくりをおこない、実践した。そのいくつかを紹介しつつ、小中連携の観点から実践内容を振り返る。

2. 小中連携を意識した授業づくり

2.1 王寺町立王寺南義務教育学校開校のいきさつ

社会全体が大きく変化する中、次代を担う子どもたちが心豊かでたくましく生き抜く力を身に付け、力強く未来を切りひらいていくとともに、地域や社会を支える人づくりを進める教育を振興していくことが求められている。そこで、今後10年間の教育に関するビジョンを示すとともに、その達成に向けた取組を推進するため、「王寺町教育振興ビジョン」が平成27年12月に策定された(王寺町教育委員会2019)。このビジョンの基本方針の大きな柱である「確かな学力を育む」の基本施策「学習環境の整備」の取組として、小中一貫教育(義務教育学校)の推進を掲げており、この取組が検討された。その結果、義務教育学校の設置は、王寺町において、教育の質の向上はもちろんのこと、

老朽化している施設を整備することにより、未来を担う子どもたちに充実した学びの環境を提供できるものであり、「義務教育学校」を設置すべきであるという結論に達した。そのため、王寺町内にある3小学校と2中学校の5校を2校の義務教育学校に再編・整備されることになった。

南北の位置的バランス及び児童生徒数のバランスから、中学校校区を基本に北は、王寺小学校、王寺北小学校及び王寺中学校を統合し、南は、王寺南小学校及び王寺南中学校を統合するものである（現在の王寺小学校区の畠田地区は、南校区となる）。令和4（2022）年4月の開校を目指して、王寺町立王寺北義務教育学校は、王寺中学校での施設一体型の整備を、王寺町立王寺南義務教育学校は、現行の王寺南小学校及び王寺南中学校施設を使用して施設分離型としてスタートすることになっている。

2.2 王寺町立王寺南義務教育学校における理科の カリキュラムからの授業づくり

平成31年（令和元年）度に、王寺町内の小中学校から理科担当の教員が集まって、令和4年開校の義務教育学校のカリキュラムを作成した。このカリキュラムづくりを通して、小学校5・6年生の理科では、中学校で学習する内容と同様の分野が多く存在することをあらためて確認した。図1にその学習内容の一部を掲載する。

	粒子の保存性	粒子の持つエネルギー
第4学年		金属、水、空気と温度 ・温度と体積の変化 ・温まり方の違い ・水の三態変化
第5学年	物の溶け方 ・重さの保存	B
第6学年	水溶液の性質 ・酸性、アルカリ性、中性 ・気体が溶けている水溶液 ・ 金属を変化させる水溶液	
第7学年	水溶液 A ・水溶液	

図1 王寺町義務教育学校理科カリキュラム表の一部
（第7学年は中学1年生を表す。）

新明は、この中で内容が重複している第6学年「金属を変化させる水溶液」と第7学年「水溶液」についての授業（以下「A授業」とする）、第4学年「水の三態変化」と第7学年「状態変化と熱」についての授業（以下「B授業」とする）をそれぞれづくり、小学生と中学生の双方に実践した。またA授業では第8学年「化学変化と熱」における発熱反応とも関連づけた。

3. A授業【2019（令和元）年12月実施】

「金属にうすい塩酸を加えるとどうなるか調べる」

3.1 授業づくりの目的

この授業は、金属にうすい塩酸を加えると溶けるようすを観察する授業である。その際に、

- ①泡を出す（気体が発生する）こと
- ②金属がなくなること

以上2点を気づかせたい。教科書に掲載されている実験では、うすい塩酸にアルミニウムやスチールウールを加えて行うもので、これで、上記の反応を実感させることができる。

第8学年の化学分野における「化学変化と熱」では、学習指導要領において、「化学変化によって熱を取り出す実験を行い、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだして理解すること」と記述されており、化学変化には熱の出入りがあることを理解するとともに、熱がどのような仕組みで発生しているのかについて考察することが求められている。したがって、

- ③温度が高くなること（発熱反応）

にも言及したいと考えた。

さらに、この実験の所要時間は1コマ分の45分を超えた内容になっている。上記のようにねらいを3つとしたため、短時間で金属にうすい塩酸を加えると溶けるようすをみるが必要になってくる。そこで、この実験をアルミニウムやスチールウールだけでなく、マグネシウムという大きく反応する金属を使うことで全体として実験が時間超過せずに上記①②③を気づかせるように考えた。その結果、マグネシウムが反応する時間は、10分程度におさまり、45分の1コマ内で授業を終えることができた。

3.2 授業対象者

王寺小学校6年2組（27名）・王寺南小学校6年1組（25名）に出前授業を行なった。同様の内容を中学生にも行なったのだが、中学1年生を令和元年度は、著者（新明）は授業を担当していなかったため、王寺南中学校3年1組・2組（各32名）に行なった。なお、王寺小学校6年1組（27名）・王寺北小学校6年生（34名）は同じ内容を、王寺中学校の別の教諭が授業を行なった。どのクラスにも図2に示すワークシートを児童・生徒に配布した。

今日のめあて:()

水よう液と金属

うすい塩酸には、鉄やアルミニウム、マグネシウムなどの()を変化させるはたらきがある。

予想 スチールウール(鉄)とアルミニウム、マグネシウムを激しく変化する順番に並び変えてみよう!

1、() 理由: []

2、()

3、()

実験 スチールウール(鉄)とアルミニウム、マグネシウムにうすい塩酸や水をそれぞれ加え、鉄やアルミニウムがどうなるか調べよう。

結果 6本の試験管のようすを書きましよう。(わかったことをまわりに書いてね)

	スチールウール(鉄)	アルミニウム	マグネシウム
うすい塩酸を加えたとき			
水を加えたとき			

分かったこと・考えたこと

[]

まとめ

[]

見えやすくなった金属はどこへ行ったのだろう……

図2 小学校で使用したA授業のワークシート(中学校でも同様のワークシートを使用した。)

準備物は以下の通りであった。これはどのクラスも同じであった。

- アルミニウムはく (1cm × 1cm 2~3枚)
- スチールウール 2つ
- マグネシウムリボン 2~3枚
- 安全めがね (人数分)・試験管たて1つ
- 試験管6本(色の違うシール3枚ずつに3つの金属の名前を書くよう指示した。)
- 10%塩酸 (約200 mL : 水143mL に35%塩酸57mLをメスシリンダー等に入れてつくるよう指示した。)
- こまごめピペット2つ
- 大ビーカー2つ (水と塩酸用)

授業の流れは表1の通りであった。また、反応の速いマグネシウムを使ったようすを図3に示した。

表1 A授業の流れ

	学習活動	指導上の留意点
導入	腐食した金属像の写真を見て気付いたことを話し合う。 ・表面が溶けたようになっているよ。 ・酸性雨が原因じゃないかな。酸性雨が金属やコンクリートを溶かすって聞いたことがあるよ。	○腐食した金属像などの画像を見せ、その原因などを話し合わせ、酸性雨などの金属を変化させる水溶液に興味を持たせる。このとき、酸性雨そのものは簡単な説明にとどめ、金属を変化させる水溶液が存在するという認識をもたせる。

展開	○アルミニウムはく、スチールウール(鉄)、マグネシウムリボンに塩酸を加えたときに激しく反応する順番を予想する。 ○金属に塩酸を加えると、どのように変化するのか調べる。 ○実験をし、結果をまとめる。 ・鉄とアルミニウム、マグネシウムから泡が出てきた。 ・マグネシウム→スチールウール→アルミニウムの順に激しく反応していた。 ・試験管が熱くなった。 ・金属はなくなってしまった。	○個人で考えたあと、グループで話し合い、順位と理由をまとめさせ、黒板にホワイトボードを貼る。 ○身近にある金属として、スチールウールとアルミニウムを提示する。またマグネシウムという金属について紹介する。(燃焼等を演示する) ○金属が溶けていく様子や発生する気体の様子を記録させる。
まとめ	○まとめる 金属に塩酸を加えると、熱や泡を出して溶ける。 ○塩酸に溶けた鉄などはどうなったのか、モデル図にかき、考えを交流し、その考えを確かめる方法を考える。	○個々の自由なイメージをもとに、図をかかせ考えを交流させる。 ○金属が小さな粒子に分かれて溶け出すイメージを持たせたい。



図3 マグネシウムの反応のようす

3.3 アンケート結果

授業後、王寺町義務教育学校設置準備室(当時推進委員会)が推進事業の一環として、小中連携の試験的な授業についての児童へのアンケートを実施した。アンケート文面を図4に示す。

図4 アンケート用紙

以下にその内容を示す。

表2 質問1「今日の学習内容がよく分かったか。」

	人数	%
よくわかった。	62	57.4
わかった。	45	41.7
あまりわからなかった。	1	0.9
わからなかった。	0	0.0
合計	108	100.0

表3 質問2「授業で分かったこと。」一部抜粋

- ・小学校ではしないマグネシウムの実験をして、泡が出てきたり、試験管が熱くなったりしたこと。
- ・塩酸にはマグネシウムや鉄、アルミニウムを溶かす力があることについて1つ1つ説明が詳しくてわかりやすかった。
- ・中学校の理科専門の先生であったので、わかりやすく、いろいろな種類の金属の変化を知ることができたこと。

表4 質問3「今日の授業は楽しく参加できたか。」

	人数	%
とても楽しかった。	46	42.6
楽しかった。	55	50.9
あまり楽しくなかった。	7	6.5
楽しくなかった。	0	0.0
合計	108	100.0

表5 質問4「楽しいと感じたこと」一部抜粋

- ・普段できない実験ができたこと。文字だけでは分からないことを体験できたこと。
- ・中学校の先生がおもしろかったこと。
- ・先生がわかりやすく説明してくれたこと。
- ・新しい発見をしたこと。

以上の結果でも分かるように、私たち中学校の教員を理科の専門家とらえて児童は授業に望んでいるであることをうかがい知ることができた。アンケート結果からも、金属にうすい塩酸を加えたときの変化という比較的専門性が求められる内容であったが、内容理解(質問1)や授業の満足度(質問3)の両方での高い評価から、中学校の理科の教員が小学生に理科を教えることは児童に好意的に受け入れられているといえる。また、アンケート結果からも分かるように、①②だけでなく、③の発熱反応の概念も小学生に理解させることができたと考えられる。

4. B 授業【2021(令和3)年2月・3月実施】

「水を熱したときに出る泡の正体から実験結果を考察しよう」

4.1 授業づくりの目的

日常生活で触れ合っている物質のほとんどは、人が使いやすいように状態変化させ、形が整えられたものである。それを考えて生活する児童・生徒はあまりいない。また、身近な物質である水の状態変化については、小学校4年生で学習するものの、そのあとの学習のつながりが中学1年生までないため、水の状態変化について考える機会が少ない。ただ、水が状態変化する様子は日常生活の中でよく見かける。ここでは、水や水以外の物質についてじっくり見たり考えたりするよい機会であると考えた。

児童にとって、状態変化をする状況がどのようなメカニズムで行われているのかのイメージがあいまいである。水を熱したときに出る泡の正体について、ビニール袋に気泡を採集する実験の授業を通して児童は既習している。本時では、「水を熱したときに出る泡の正体から実験結果を考察しよう」という目標をたて、水が水蒸気に変化する状態変化(沸騰を扱う)をする際に生じる気泡を、2つの大きさの違うピーカーを用いて泡を採集し、その結果起こるピーカー内の現象を予想しあい、また、その結果を考察しあう活動を行った。

4.2 授業の実践

王寺小学校4年1組・2組・3組(各27名)、王寺南小学校4年1組・2組・3組(各25~26名)、王寺南中学校1年1組・2組・3組(各25~26名)に、令和2年度に授業を行なった。図5・6に示す授業プリントを児童に配布した。水の加熱方法は、小学校では実験用ガスコンロ、中学校では、ガスバーナーをそれぞれ用いたため、ガスコンロをガスバーナーに書き替えたものに、また物質の三態に関する復習についての記載を加えたものを生徒に配布した。

今日は、皆さんが今習っている「水のすがた」に関する実験を1つしようと思います。

A. 実験目的

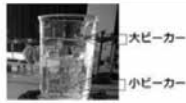
水を熱するときに出てくる泡の正体から実験結果を考察しよう

B. 用意するもの

大ビーカー500mL、小ビーカー50mL、ふっとう石、ガスコンロ

C. 実験方法

- ①大ビーカーに水500mLを入れる。ふっとう石を少量入れる。
 - ②大ビーカーの中に小ビーカーを下向きにいれ、水に沈める。
(このとき、空気が小ビーカーの中に入らないように注意する。)
 - ③ガスコンロに火をつける。
 - ④水から出る気泡を、小ビーカーに採集する。
 - ⑤小ビーカーがどのような動きをするかを観察する。
- ※小ビーカーに動きが見られたら、ガスコンロを切ること。



感想

図5 授業プリント1 (B 授業) 小学生バージョン

1. 泡の正体を予想しよう!(復習?)

私は、水を熱したときに出てくる気体の正体は① _____ だと思う。

2. 実験結果を予想しよう!

(泡を集めた小ビーカーは大ビーカーの水のなかでどのような動きをするか)

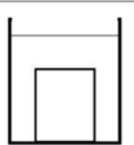
私は、水のなかで小ビーカーに気泡がたまっていくと、

② _____ と思う。

理由は③ _____

_____ だからです。

班のみんなの意見



3 実験結果を記入しよう!

気泡をためることができたか。

④ _____

ビーカーのようすはどうだったか

⑤ _____

4. なぜそうなったのか考えよう

なぜ実験結果のようになったかというと

⑥ _____

_____ からです。

班のみんなの意見

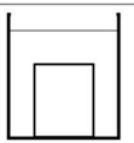


図6 授業プリント2 (B 授業) 小学生バージョン

実験のようすを図7に示す。上がガスバーナーを用いた中学校でのようす、下がガスコンロを用いた小学校でのようすである。

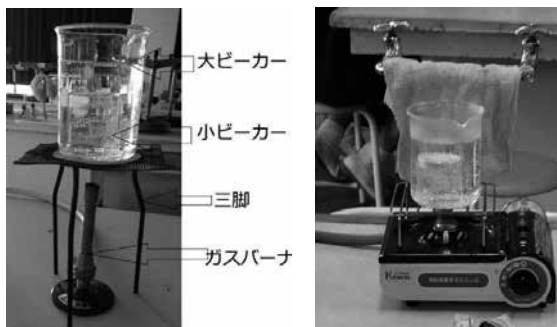


図7 実験のようす

授業の流れは表6の通りであった。

表6 B 授業の流れ

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○班の役割を決める。 ○学習問題を確かめる。 • 泡の正体は空気ではないか。 • 泡の正体は水蒸気ではないか。 	プリントに記載させる。 実験プリントを配布する。	
開	<ul style="list-style-type: none"> ○実験装置をつくる。 ○ガスコンロをつける。 ○実験結果を予想する火をかけたビーカーの中がどうなるのかを予想し、班で意見を出し合う。 ⇒全体で共有する。 ○ビーカーの中を観察する。 ○実験結果がでたら、沸騰が激しくなる前にガスコンロの火を止め、その後のようすを観察する。 	実演し、大ビーカーに500mLの水を入れ、小ビーカーを裏返すところまで作成させる。おわったら手をあげさせる。 ※ガスコンロをつける場所は全員で一緒にすることを伝える。 ※小ビーカーに気体が入らないように注意する。 ※突沸を防ぐため沸とう石を入れさせる。 机間指導をし、安全に最大限配慮する。まずは個人で考え、班で共有する。 ※ガスコンロで火をつけ、ビーカーに当ててから約15分後に結果が出るので、実験の予想は10分弱で終了させる。	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果のみ各班の意見を聞き、共有しておく。 ○ビーカーが冷めていれば、ビーカーの水を捨てる。 	プリントを回収する。	実験プリント

※小学生で授業を行なう際は、「状態変化」や「気体」という語句を学習していないため、注意をする必要がある。特に、ここでの「気体」は授業内では「泡」と表現するようにした。

4.3 水を熱したときに出る泡の正体のとらえ方

水を熱したときの泡について、児童・生徒は表7・表8ように予想した。ここでは王寺小学校の児童の集計ができなかったため、王寺南小学校、王寺南中学校の児童・生徒の結果を示す。

表7 王寺南小学校4年生児童の予想(77名)

気体名(泡の正体)	人数(人)
水素	3
空気	48
水	3
水蒸気	14
ガス	2
煙	1
二酸化炭素	4
酸素	1
欠席者	1

表8 王寺南中学校1年生生徒の予想(76名)

気体名(泡の正体)	人数(人)
水素	4
空気	2
水	9
水蒸気	47
二酸化炭素	2
酸素	7
欠席者	5

小学生は、ほとんどの児童が、泡の正体が「空気」であると解答した。以下に児童の予想を紹介する。

- あわが空気だからたまると空気の力で浮く。
- 泡がどんどん大きくなって浮くけど、すぐ沈む。

中学生は、ほとんどの児童が、泡の正体が「水蒸気」「気体」であると解答したが、一部「酸素」や「水素」と答える生徒もいた。以下に生徒の予想を紹介する。

4.4 実験結果

中に泡がある程度たまるとビーカーが浮き、中に沈めた小ビーカーの上部が全体の大ビーカーの水面より上に行くと、周囲の空気によって小ビーカーの中の空気が冷やされ、水に状態が変化する。このように水から姿を変えたものが水に戻りうることを見て、この気体は水(水蒸気)と分かる。

4.5 考察

水面で泡が冷やされて、水に戻ったと正しく予想した児童も数名いた。しかし、小学生の児童の考察で多かった予想を以下に示す。

- 泡が逃げていった。
- 温かい空気は上に行く。
- 水蒸気が水に戻る。

中学生の生徒の考察でもやはり、「泡が逃げていったから。」というものが多数出た。水面で泡が冷やされて

水に戻ったと予想した生徒は、小学生と比べると多くなっていたが、全体の4分の1程度であった。以下に中学生の考えた水蒸気である理由を紹介する。

- 火で熱したときに気体が消えたから。
- 水は熱すると水蒸気になって水より軽いから浮く。火を弱めると水に戻って消えていく。

水から泡になったものが、水に戻りうることから泡が、水が姿を変えたもので空気ではないという結論を導くために、ビーカー内の水を冷やしていき、小ビーカー内の泡がなくなっていく様子まで観察させ、正体が水(水蒸気)であることを結論づけた。水素や酸素、二酸化炭素を確かめる方法と比べて、難しい内容であった。

4.6 児童の感想

A 授業同様、私たち中学校の教員を理科の専門家ととらえてくれているみたいで、中学校の教員に教えてもらって「わかりやすかった」や、「なぜそうなるのかを知りたい」といった前向きな以下のような感想が多く見られた。

- 中学校の先生の説明がわかりやすかった。
- なぜそうなったかはやく知りたい。

図8は小学校での、新明の出前授業の様子である。



図8 出前授業のようす(王寺小学校)

5. まとめ

5.1 小中連携ならではの工夫とその効果

小学校への出前授業を行なう中で、中学校の理科の教員が小学生の教科担任をする際に、どのようなことを履修していて、どのようなことが未履修なのかを理解し、身近な現象を伝え、その仕組みについて考えさせる必要があるのではないかと感じている。

小学校の学級担任が理科の時間割を組む際、週3コマの理科の時間を1コマと2コマに分け、2コマ連続の理科の時間に実験を充てることがある。教科書に掲載されている観察・実験内容の中には時間を要する内

容も多く、45分を超える実験が掲載され、また学級担任が実験の準備や片付けをすべて行うのが普通のため、そのように理科室も割り当てられている。しかし、王寺町立王寺南義務教育学校においては、中学生も理科室を使用する中で、小学校の理科で2コマ続きの理科室の割り当てを行うことは困難であると予想される。表5にその例を示す。また、学級担任とちがい、理科の教科担任は同日に同じ内容の授業を複数行うことが多いため、3コマを1コマずつ行う形が望ましいのではないかと考える。表6にその例を示す。

表5 理科が1コマ・2コマの時間割例(小6)

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	社会	国語	算数
2	社会	理科	国語	家・音	理科
3	家庭	算数	外国語	社会	理科
4	算数	音楽	算数	算数	書写
5	図・体	体育	道徳	総合	体育
6	図工	学活		ク・委	総合

表6 理科が1コマずつの時間割(小6)

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	社会	国語	算数
2	社会	理科	国語	家・音	外国語
3	家庭	算数	理科	社会	理科
4	算数	音楽	算数	算数	書写
5	図・体	体育	道徳	総合	体育
6	図工	学活		ク・委	総合

2コマ連続が取りにくいという状況を逆に利用し、実験を1コマで済ませることによって、まとめの時間を利用してより専門的な内容を学習することができるのではないかと感じている。

5.2 中学校教師として小学校に出向いた気づき

出前授業をおこなうにあたって感じたこととして、今何をする時間なのかを伝える際に工夫が必要であることである。たとえば、話を聞かせることを促す際に、「鉛筆置いて前向いてね」という声かけや、活動時間から全員を座らせるときには「靴の裏を床に付けて座りましょう」という声かけを行なうなど、具体的な指示を行わないと児童には伝わらないことを知った。この2つは、出前授業でよく使える「子どもに想いが伝わるちょこっとフレーズ」ではないだろうか(高橋

2021)。また、学級担任による独自のルールがある学級も多く、学級担任との連携や意見交換も重要であると感じた。

5.3 中学校での理科教育を行うにあたって

中学校の理科では、小学校でどのような内容を学習しているのかを確認することは非常に重要であると感じた。用語は中学校ではじめて学習することが多いが、その背景にある現象は小学校において丁寧に観察、実験が行われていることが多い。中学校教師として説明していたことが、小学生にとって専門的だとしても理解してもらえ、楽しんでもらったのは、これが理由だろうと感じている。

謝辞

本報告で掲載した、出前授業は、王寺町立王寺小学校、王寺町立王寺南小学校、王寺町立王寺南中学校の先生方、そして児童・生徒のみなさんご協力があった実施できたものです。さらに、王寺南中学校の理科教員である井上香先生や平田雄一先生、2年生の生徒の皆さんと2年生担当の先生方に支えられて、実践を行なうことができました。出前授業実施の調整をしていただいた各校の管理職の先生方にも感謝申し上げます。

引用資料

- 王寺町教育委員会(2019) 王寺町教育委員会ホームページより、
王寺町義務教育学校設置にかかるQ & A
<https://www.town.oji.nara.jp/kakuka/kyoikuiinkai/gimukyoku/information/3687.html>
第9回王寺町義務教育学校推進委員会教育課程PT報告より(令和2年2月14日)
高橋朋彦(2021)
「子どもに想いが伝わるちょこっとフレーズ」月刊
教員養成セミナー 2021年12月号、132-133

注

- 1) 令和3年4月3日、令和4年4月の開校をめざすこととなった。
2校の義務教育学校の校名(案)は、広くアイデアを募集し、協議した結果、令和3年12月に「王寺町立王寺北義務教育学校」と「王寺町立王寺南義務教育学校」に決定した。
<https://www.town.oji.nara.jp/kakuka/kyoikuiinkai/gimukyoku/information/4091.html>

